資料４－２

# 郵便事業の安定的・持続的な運営を確保するための方策について
## ―消費者の立場から



2026年11月4日

主婦連合会　常任幹事　木村たま代

# 主婦連合会(主婦連)とは

結成は1948年10月。「おしゃもじとエプロン」をシンボルに誕生し、戦後の消費者運動をリードしてきました。不良マッチ追放主婦大会をきっかけに設立した全国組織の消費者団体です。普通の生活者の声を政治にぶつけて「台所から政治をよくしよう」という願いがずっと運動を支えてきました。

消費者の団体と個人からなる消費者団体です。

「いのちと暮らしを守る」ことを目的とし、くらしの苦情を社会化し消費者を守る制度や法律を制定させる運動を展開しています。

主婦連合会ホームページ　https://shufuren.net/



# 消費者にとって郵便とは

暮しに欠かせない生活インフラの一つ

ユニバーサルサービス

あまねく全国一律の料金体系

公平な利用が可能

確実な配達

郵便事業は、信用、信頼こそ最も重要



# 郵便についての主な意見

主婦連合会
会員の

**配達日数**

郵便送達日数が不安定。祝日を含めての郵便送達日数の安定性がほしい。

**内部改革**

特定郵便局の問題、見直しは進めてほしい。地域のコミュニティとの兼合いも考えて見直しを。

**社会サービス**

郵便事業は社会的サービスなので、赤字が当然だと思う。日本で、社会的サービスを削ってまで収益優先でおし進める社会的意義があるのかというところを問いたい。

**郵便料金**

早く配達してほしいならばレターパックというのは、体のいい値上げではないか。

**内部改革**

郵便物の種類は減っていると思われるので、郵便物が減れば人間も減らして良いのではないか。その辺の内部改革はどうなのか。

**公的資金**

公的に支えることが大事だ。郵便に関しては公的資金を投入して支えていく。過疎地域も含めて同一料金にする。

**公的資金**

信書は、信頼がある郵便局でないと送れないと思っている。信書を鑑みると公的資金の補填は当然だ。

**内部改革**

悪いところにきちんとメスを入れる。郵便局が歴史的な役割を果たしてきたことに対しては、リスペクトしないといけない。

**信用信頼**

郵便事業は、信用、信頼こそ最も重要だ。

**郵便料金**

日本の何処にでも郵便が届く、信頼性とユニバーサルサービスは守るべきだ。それにはある程度の値上げは仕方がないのではないか。




**郵便は私たちとって必要なもの**

# 利用者ニーズを踏まえた
# サービス水準や種類の在り方とは?

セーフティーネット的なサービスとして捉えるのだったら、最低限ユニバーサルなところへ公的資金を投入してでも、弱者に対する経済的負担は増やさないでほしい

**公的資金の投入が必要**

**どうバランスをとっていけばいいのか**

日本の何処にでも郵便が届く、信頼性とユニバーサルサービスは守るべきだ。それにはある程度の値上げは仕方がないのではないか

**ある程度の値上げも仕方がない**



# 郵便ネットワークの維持に向けた課題及びその対応

- 一方的な料金値上げやサービス低下などの負担増は納得できない
- まずは、日本郵便全体の改革・経営の透明性・公的資金投入
  ➡消費者への明確な情報公開で理解を求めることが必要
- サービス水準の見直しについて
  ユニバーサルサービスは保持していただきたい
  ただし、その内容については検討する
  （配達頻度の変更、一定の場合に個別配達ではなく郵便局等での受け取りを許容、郵便ポストの削減等）
- 条件不利地域においては、引受・配達方法等を工夫して継続
- 消費者に分かりやすい、使いやすいサービスであること
- 職員の待遇についても改善が必要



主婦連合会から

# 郵便事業に期待すること

- デジタル弱者など「ぜい弱な消費者」を置き去りにしない
  - ➡「対面サポート」
- 誰もが利用しやすい料金体系
- 確実な集配
- 地方自治体との連携
- 災害時や有事における「最後のセーフティネット」

➡

**リアルの拠点がある安心感**
**消費者視点の郵便事業**

➡

消費者からの

**信頼**



主婦連合会では、引き続き誰もが安心安全に暮らすために活動していきます。

ありがとうございました

